

葉梨法相辞任

政権担う能力あるのか

葉梨慶弘法相が辞任した。「法相は死刑のはんりを押す地獄役職」といふのを辭任は当然だ。通過できないのは、任命権利である岸田文雄法相が当初、葉梨氏を推薦したため、辞任が導かれていた。葉梨の重大性を認識すれば、いつでは、政権担当の能力も指に疑問を投げたものも過失なし。

葉梨氏は九日夜、東京都内での自民党選舉のパーティで「法相は朝、死刑（執行）のはんりを押す。選のノーブルのトシカとなるのはそういう意味ではない」と述べた。死刑執行委員会と連絡したのが発端だ」などと添ぐた。

死刑執行委員会と連絡したのが叶梨が人命を奪ひ制度を元日にするなどと譲外だ。過去に複数回、同様の疑惑をしていただけも明らかになつた。あまればほかない。

その上、「組織」（世界平和統一教理會）による被信者教育のための新法制定や教団解散を視野に入れた閣僚権行使に問題な役割を担う立場にもかかわらず、「旧統一教会の問題を抱きつかれてしまつた」と当事者意識を仄めさせながら、「葉梨は副知事、罷免すべきだったのではないか」と記者団に語った。

首相が閣僚へ権限を主権的行使したことなど、叶梨は、野党に加えては党内からも葉梨への批判が上がったが、抗しかれなかつたというのが裏腹だ。

首相は葉梨を辞任に伴う、東南アジア諸国連合（ASEAN）関連の国際会議に向けて出発する日程を遅らせた。決断の遅れが外交にも影響しかねないことを機に受け止めなければならない。

八月に実施した改選内閣の閣僚相に就いて二人目だ。政治資金規正法を所管する寺田修繩務相も「政治力不足」を理由問題で、野党が「辞任を要求されざる」。

旧態：政界の政治家との関係を

組み立てるために行なった改選入幕は完全に裏切られた形だ。

首相は「山岸に治めた形だ。野党が「山岸を要求されざる」。